



日産化学株式会社

2024 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

説明者

取締役 専務執行役員 CFO 大門秀樹

2023 年 11 月 10 日

上期

前年同期比

- 売上高は、38億円減収(-4%) (2Q 4億円減収)
- 営業利益は、41億円減益(-14%) (2Q 18億円減益)
- 純利益は、42億円減益(-18%) (2Q 25億円減益)

上期

業績予想比

(2023年5月発表予想との比較)

- 売上高は、29億円下ぶれ (2Q 30億円下ぶれ)
- 営業利益は、20億円下ぶれ (2Q 25億円下ぶれ)
- 純利益は、2億円下ぶれ (2Q 15億円下ぶれ)

株主還元の状況

- 中間配当 70円(前年比:据え置き)
- 自己株式取得 50億円完了(2023年5~6月、805千株)

業績予想の修正

- 2023年5月発表の通期業績予想を下方修正(p9, 10参照)

| 4

大門：日産化学の大門でございます。本日は皆様、ご多忙のところ、ご参加ありがとうございます。それでは説明を始めます。

今回の決算説明会資料4ページでございます。

ここはこの上期の決算サマリーということで、4点ほどご説明します。

まず上期、前年同期比といたしましては、そこに記載の通り、売上高は38億円、4%の減収でございました。

営業利益は41億円、14%の減益、また純利益は42億円、18%の減益ということとなりました。

ただ昨年の2022年度上期は特に大きく伸びた期間でして、2021年度上期対比で、営業利益は約32%増益でした。

一方、上期の業績予想比、これは2023年の5月に当初発表いたしました数字との比較ということになります。記載の通り、売上高では29億円の下ぶれ、うち2Qでは30億円の下ぶれ、営業利益は20億円の下ぶれ、うち2Qで25億円の下ぶれ、純利益は2億円の下ぶれ、2Qでは15億円の下ぶれということとなっております。

株主還元のご状況でございますが、中間配当 70 円ということで、前年比で据え置きとさせていただいております。また自己株取得は既に 6 月までに 50 億円完了しております。

業績予想の修正でございます。この 5 月に発表いたしました当初の業績予想につきましては、後ほど申し上げますが、下方修正をいたします。

2023年度上期決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	583	512	1,095	549	508	1,057	-34 (-6%)	-4 (-1%)	-38 (-4%)
営業利益	173	109	282	150	91	241	-23 (-13%)	-18 (-16%)	-41 (-14%)
営業外損益	22	16	38	20	1	21	-2	-15	-17
為替差損益	17	13	30	15	4	19	-2	-9	-11
経常利益	195	125	320	170	92	262	-25 (-13%)	-33 (-27%)	-58 (-18%)
特別損益	0	0	0	0	6	6	0	+6	+6
純利益 ^{※1}	139	98	237	122	73	195	-17 (-12%)	-25 (-26%)	-42 (-18%)
EBITDA ^{※2}	197	136	333	178	122	300	-19	-14	-33
EPS(円/株)	98.13	69.61	167.74	87.40	52.15	139.55	-10.73	-17.46	-28.19
配当(円/株)	-	-	70	-	-	70	-	-	0
配当総額	-	-	99	-	-	98	-	-	-1
売上高営業利益率	29.6%	21.3%	25.7%	27.3%	17.9%	22.8%	-2.3pt	-3.4pt	-2.9pt
為替レート(円/ドル)	130	138	134	137	145	141	-	-	-
原油(JCC)(^{ドル} /bbl) ^{※3}	111	113	112	83	83	83	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

次、具体的な数字、5 ページでございます。

ここは上期の前年同期比の数字でございます。真ん中やや右の上期というところを見ていただきますと、売上高で 1,057 億円、営業利益は 241 億円、純利益は 195 億円という数字でございます。

為替レートは、この上期は 1 ドル 141 円でございます。

また原油価格は、バレル当たり JCC で 83 ドルという結果でございます。

2023年度上期決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 実績			業績予想比		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	548	538	1,086	549	508	1,057	+1	-30	-29
営業利益	145	116	261	150	91	241	+5	-25	-20
営業外損益	7	-4	3	20	1	21	+13	+5	+18
為替差損益	0	0	0	15	4	19	+15	+4	+19
経常利益	152	112	264	170	92	262	+18	-20	-2
特別損益	0	6	6	0	6	6	0	0	0
純利益 ^{※1}	109	88	197	122	73	195	+13	-15	-2
EBITDA ^{※2}	-	-	319	178	122	300	-	-	-19
EPS(円/株)	-	-	140.74	87.40	52.15	139.55	-	-	-1.19
配当(円/株)	-	-	70	-	-	70	-	-	0
配当総額	-	-	98	-	-	98	-	-	0
売上高営業利益率	26.5%	21.6%	24.0%	27.3%	17.9%	22.8%	+0.8pt	-3.7pt	-1.2pt
為替レート(円/ドル)	128	128	128	137	145	141	-	-	-
原油(JCC)(^{ドル} /bbl) ^{※3}	92	92	92	83	83	83	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 6

次、6 ページは、この上期の業績予想比、5 月の発表値との比較ということになります。

数字は、先ほど申しあげました通り、真ん中やや右のブルーのところでございます。なお、為替レートにつきましては、年初置いた数字としましてドル円で128円、対しまして、上期実績は、先ほど申しあげましたように141円、また原油につきましては92ドルで見えておりましたが、実際は83ドルということとなりました。

営業利益の増減分析

	2023年度 実績	2022年度 実績	前年同期比	業績予想(2023年5月発表)	業績予想比
上期	241 億円	282 億円	-41 億円(-14%) (うち半導体 -39億円)	261 億円	-20 億円
化学品	前年同期比 -12億円 業績予想比 13億円下ぶれ		メラミン(終売)、テピック減収、原燃料高により減益 主要製品の減収、在庫変動影響(減益要因)により利益下ぶれ		
機能性材料	前年同期比 -28億円 業績予想比 16億円下ぶれ		ディスプレイ増収増益も、半導体減収・固定費(機能性合計で18億円)増加により機能性合計減益 ディスプレイ上ぶれも、半導体・無機下ぶれ		
農業化学品	前年同期比 -5億円 業績予想比 4億円下ぶれ		グレーシア増収も、ラウンドアップ・アルテア等の減収・固定費8億円増加により減益 グレーシア・タルガ上ぶれも、ラウンドアップ・アルテア等下ぶれ		
ヘルスケア	前年同期比 +3億円 業績予想比 3億円上ぶれ		ファインテック増収 ファインテック上ぶれ		
参考	91 億円	109 億円	-18 億円(-16%) (うち半導体 -26億円)	116 億円	-25 億円
化学品	前年同期比 -4億円		業績予想比 13億円下ぶれ		
機能性材料	前年同期比 -14億円 (固定費10億円増加)		業績予想比 15億円下ぶれ		
農業化学品	前年同期比 -3億円 (固定費6億円増加)		業績予想比 4億円下ぶれ		
ヘルスケア	前年同期比 横ばい		業績予想比 2億円上ぶれ		

| 7

次、7ページでございます。

この上期のセグメントごとの営業利益の増減分析でございます。

冒頭太字の数字でございますように、前年同期ではマイナス41億円、14%の減益でございましたが、そのうち半導体でマイナス39億円ということでございました。また業績予想比では、マイナス20億円の下ぶれと、先ほど申し上げた通りでございます。

セグメントごとに申し上げますと、まず化学品について、上期は前年同期比で12億円の減益、ここはメラミンの終売、またテピックの減収、原燃料高等によって減益ということございました。

業績予想比でも13億円の下ぶれということで、主要製品の減収に加えまして、後ほど申し上げますが、在庫変動影響、これが減益要因としてございまして、利益の下ぶれということになっております。

機能性材料でございますが、前年同期比ではマイナス28億円、大きく減益でございました。

内訳としましては、コメントの通り、ディスプレイでは増収増益でございましたが、半導体は2022年度上期が大変好調だったということで、そこの比較では減収、また固定費も機能性全体で18億円ほど、前年対比で増加をしているということで、結果、機能性全体で合計減益ということになっております。

業績予想比でも16億円の下ぶれということで、コメントにございます通り、ディスプレイは上ぶれましたが、半導体の下ぶれ、これがかなり大きな部分を占めているということになります。

続きまして、農業化学品、ここは前年同期比で5億円の減益、グレースは大きく増収になりましたが、ラウンドアップ、アルテア等、国内農薬のところでは減収、また固定費の増加もございました。業績予想比でも4億円の下ぶれということで、ここに記載の通りでございます。

最後にヘルスケア、ここはそれぞれ3億円の増益、ないしは上ぶれというのが上期の結果でございました。

ご参考までに、その下に2Q、7月から9月の3カ月分のセグメントごとの数字を載せておりますので、後ほどご覧ください。

2023年度通期 業績予想サマリー 営業利益

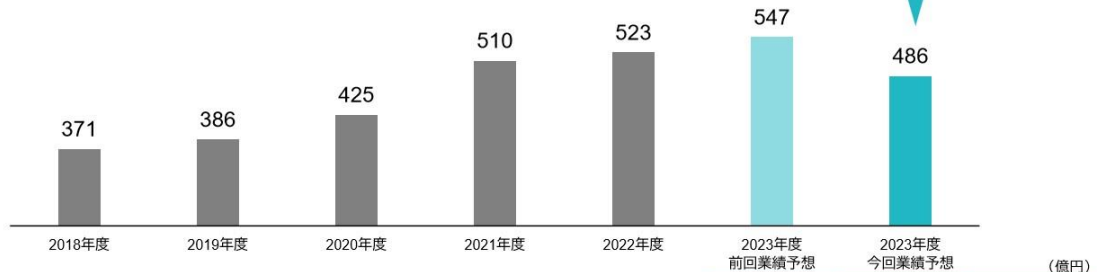


■ 通期業績予想を下方修正(2023年度通期営業利益:486億円)

上期の実績および下期の見通しを踏まえ、前回発表予想を修正

■ 営業利益推移

(億円)



	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 前回業績予想 (2023年5月発表)	2023年度 今回業績予想 (2023年11月発表)	前年同期比
化学品	30	13	15	38	14	32	8	-6
機能性材料 (うち半導体)	150	170	224	276	254	265	233	-21 (-42)
農業化学品	184	193	182	181	231	236	233	+2
ヘルスケア	10	9	4	28	30	23	26	-4
卸売・その他・ 調整額	-3	1	0	-13	-6	-9	-14	-8
合計	371	386	425	510	523	547	486	-37

※ 2019- : 新方式セグメント別営業利益(詳細はp75)

※ 2022年4月に組織改定を実施。2020年度実績までは旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p79,p80参照)

続きまして、9 ページに移ります。通期の業績予想でございます。

このページは営業利益に注目しまして、過去から数字を上げておりますが、結論といたしましては、ここまでご説明した上期の実績、および下期の見通しを踏まえまして、前回の発表予想を修正いたします。通期としましては、今年度、営業利益で 486 億円ということといたしたいと思えます。

下のグラフには、表も含めまして、2018 年度からの推移をお示ししております。今回の修正後の数値、営業利益で 486 億円という数字でございますが、右から 2 列目ということになります。

この数字は、右上に吹き出しの通り、2023 年度は半導体市場の低調に加えまして、半導体の設備投資、あるいは研究開発増強といったようなことによりまして、会社全体としては、前年同期比で 37 億円の減益ということを見込むこととなります。

この 37 億円のうち、半導体セグメントの減益額は一番右の列の括弧内、42 億円となっております。

2023年度通期 業績予想サマリー



2023年度業績予想

通期	前年同期比
----	-------

- 売上高は6億円減収(-0%)
- 営業利益は37億円減益(-7%)、純利益は27億円減益(-7%)
- ROE予想は17.1%

通期	前回業績予想比 (2023年5月発表予想との比較)
----	------------------------------

- 売上高は98億円下ぶれ
- 営業利益は61億円下ぶれ、純利益は31億円下ぶれ

下期	前回業績予想比 (2023年5月発表予想との比較)
----	------------------------------

- 売上高は69億円下ぶれ
- 営業利益は41億円下ぶれ、純利益は29億円下ぶれ

株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%(2023年5月発表から変更なし)
- 自己株式取得50億円完了(取得期間:2023年5~6月)
- 年間配当は前回予想164円で据え置き

配当	通期164円 中間70円、期末94円、配当性向59.6% 【前年比】据え置き 【2023年5月発表予想比】予想通り
自己株式取得	50億円、805千株取得済(取得期間:2023年5~6月)(2022年度実績 90億円、1,356千株)
自己株式消却	1.5百万株消却済(2023年5月、8月)
総還元性向目標	75%(配当164円と自己株式取得50億円に基づけば72.5%)

| 10

次の 10 ページでございますが、この業績予想のサマリーでございます。

今回見直し後の業績予想といたしましては、まず通期で、前年同期比で売上高は6億円の減収、一方、営業利益は37億円、7%の減益、純利益も27億円、7%の減益ということとなります。またROEの予想としましては、通期で17.1%ということをごさしまして、これは中計目標18%を1%下回るということとなります。

また、この通期の5月の業績予想との比較でございますが、売上高は98億円の減収、営業利益は61億円、率にしますと約11%の減収、純利益も31億円、率では約7%の減収ということとなります。下期の業績予想比につきましては、そこに記載の通りでございます。

株主還元でございます。下段でございますが、中計目標に基づきまして、総還元性向75%、配当性向55%というところは5月の発表から変更ございません。したがって、年間配当は前回予想の164円ということで、青字の部分でございますが、据え置きとさせていただきます。内訳は、中間が70円、期末は94円ということで、計算上、配当性向としては59.6%と、やや中計目標よりは上回ります。なお、総還元性向の目標につきましては、最下段でございますが、75%で変わりございません。

2023年度業績予想サマリー 前年同期比



(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想 (2023年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	1,095	497	689	1,186	2,281	1,057	480	738	1,218	2,275	-38 (-4%)	-17 (-3%)	+49 (+7%)	+32 (+3%)	-6 (0%)
営業利益	282	106	135	241	523	241	79	166	245	486	-41 (-14%)	-27 (-26%)	+31 (+23%)	+4 (+2%)	-37 (-7%)
営業外損益	38	-13	10	-3	35	21	2	4	6	27	-17	+15	-6	+9	-8
為替差損益	30	-21	4	-17	13	19	0	0	0	19	-11	+21	-4	+17	+6
経常利益	320	93	145	238	558	262	81	170	251	513	-58 (-18%)	-12 (-13%)	+25 (+18%)	+13 (+5%)	-45 (-8%)
特別損益	0	0	8	8	8	6	0	6	6	12	+6	0	-2	-2	+4
純利益 ^{※1}	237	71	103	174	411	195	62	127	189	384	-42 (-18%)	-9 (-12%)	+24 (+23%)	+15 (+9%)	-27 (-7%)
EBITDA ^{※2}	333	135	165	300	633	300	-	-	330	630	-33	-	-	+30	-3
EPS(円/株)	167.74	50.25	73.37	123.62	291.36	139.55	-	-	135.87	275.42	-28.19	-	-	+12.25	-15.94
配当(円/株)	70	-	-	94	164	70	-	-	94	164	0	-	-	0	0
配当性向(%)	-	-	-	-	56.3%	-	-	-	-	59.6%	-	-	-	-	+3.3pt
配当総額	99	-	-	132	231	98	-	-	131	229	-1	-	-	-1	-2
売上高営業利益率	25.7%	21.4%	19.6%	20.4%	22.9%	22.8%	16.5%	22.5%	20.1%	21.4%	-2.9pt	-4.9pt	+2.9pt	-0.3pt	-1.5pt
ROE	-	-	-	-	19.4%	-	-	-	-	17.1%	-	-	-	-	-2.3pt
為替レート(円/ドル)	134	141	132	137	136	141	142	142	142	142	-	-	-	-	-
原油(JCC) (ドル/bbl) ^{※3}	112	100	87	94	103	83	88	88	88	86	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

| 11

続きまして、具体的な数字でございますが、11ページでございます。

まずここは前年同期比ということで、真ん中の列が今回見直し後の数字ということになります。上期実績、それから3Q、4Q、下期、並びに年間ということになります。

営業利益でいきますと、上から2行目ですが、上期実績は、先ほどの通り241億円でございましたが、下期は245億円、年間では486億円ということになります。

また経常利益では、年間で513億円、純利益では384億円ということでございます。

なおEBITDAは630億円ということで昨年度からあまり変わっていませんが、ここは営業利益が減益になる一方で、減価償却は増えているということでございます。

結果、ROEは17.1%、下から3行目でございます。

為替レートにつきましては、この下期は1ドル142円ということで、上期141円でございますので、ほぼ横ばいで置いております。

原油は、バレル当たり88ドルという想定になります。

2023年度業績予想サマリー 前回業績予想比



(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 予想 (2023年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	1,086	1,287	2,373	1,057	1,218	2,275	-29	-69	-98
営業利益	261	286	547	241	245	486	-20	-41	-61
営業外損益	3	5	8	21	6	27	+18	+1	+19
為替差損益	0	0	0	19	0	19	+19	0	+19
経常利益	264	291	555	262	251	513	-2	-40	-42
特別損益	6	6	12	6	6	12	0	0	0
純利益 ^{※1}	197	218	415	195	189	384	-2	-29	-31
EBITDA ^{※2}	319	357	676	300	330	630	-19	-27	-46
EPS(円/株)	140.74	156.87	297.61	139.55	135.87	275.42	-1.19	-21.00	-22.19
配当(円/株)	70	94	164	70	94	164	0	0	0
配当性向(%)	-	-	55.1%	-	-	59.6%	-	-	+4.5pt
配当総額	98	131	229	98	131	229	0	0	0
売上高営業利益率	24.0%	22.2%	23.1%	22.8%	20.1%	21.4%	-1.2pt	-2.1pt	-1.7pt
ROE	-	-	18.6%	-	-	17.1%	-	-	-1.5pt
為替レート(円/ドル)	128	128	128	141	142	142	-	-	-
原油(JCC)(ドル/bbl) ^{※3}	92	92	92	83	88	86	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 ※3 実績は財務省貿易統計ベース

続きまして 12 ページ、ここはこの業績予想サマリーの二つ目として、前回 5 月発表の業績予想との比較になります。

ここは数字を見ていただければと思いますが、一番下から 2 行目の為替レート、これはこの 5 月は 1 ドル 128 円とやや円高に置いておりましたが、今回は、先ほど申し上げました通り、下期では 142 円、通期でも 142 円という想定となります。

営業利益の増減分析



	2023年度 予想 (2023年11月発表)	2022年度 実績	前年同期比	前回予想(2023年5月発表)	前回業績予想比
	245 億円	241 億円	+4 億円(+2%)	286 億円	-41 億円
下期	化学品	前年同期比 +6億円 業績予想比 11億円下ぶれ	メラミン(終売)の減収も、主要製品の増収により増益 テビック減収、在庫変動影響(減益要因)		
	機能性材料	前年同期比 +7億円 業績予想比 16億円下ぶれ	半導体減収・固定費(機能性合計で実質11億円)増加も、ディスプレイ増収増益で機能性合計増益 ディスプレイ上ぶれも、半導体下ぶれ・固定費(機能性合計で実質5億円)上ぶれ(減益要因)により下ぶれ		
	農業化学品	前年同期比 +7億円 業績予想比 1億円上ぶれ	固定費8億円増加も、グレーシア・フルララネルの増収により増益 固定費8億円の上ぶれ(減益要因)も、グレーシア・フルララネルの増収により上ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比 -7億円 業績予想比 予想通り	ファインテック減収により減益		
通期		486 億円	523 億円	-37 億円(-7%) (うち半導体 -42億円)	
	化学品	前年同期比 -6億円	メラミン(終売)、テビック減収、在庫変動影響(減益要因)により減益		
	機能性材料	前年同期比 -21億円	ディスプレイ増収増益も、半導体減収・固定費(機能性合計で実質29億円)増加により機能性合計減益		
	農業化学品	前年同期比 +2億円	固定費16億円増加も、グレーシア・フルララネルの増収により増益		
	ヘルスケア	前年同期比 -4億円	ファインテック減収により減益		

| 13

続きまして 13 ページ、セグメントごとの営業利益の増減分析でございます。

上段が下期の YoY、並びに予想比、それから一番下が通期の YoY の数字でございます。

下期につきましては、前年対比ではプラス 4 億円と若干の増益ということとなります。一方、業績予想比では 41 億円の下ぶれということになります。

上から化学品ですが、前年同期比ではプラス 6 億円、これは営業利益でございますけれども、主要製品の増収によりまして増益、業績予想比では一方、11 億円の下ぶれということで、ここはテビックの減収が想定以上に大きいと、また在庫変動影響も、後ほど申し上げますが、減益要因として効いております。

機能性材料は、前年同期比でプラス 7 億円、半導体の減収、あるいは固定費の増加というのがございますが、ディスプレイの増収増益で、機能性全体としては増益を前年対比では確保する見込み。一方、業績予想比では 16 億円の減収ということ、ディスプレイは上ぶれますが、半導体の減収、これは売上高で言いますと、期初の予想に対しまして 10%の減収を想定いたしますが、これに加えて固定費の上ぶれもございまして、結果的には 16 億円の減収を見込んでおります。この大半が半導体の部分でございます。

続きまして、農業化学品は、前年同期比では 7 億円の増益、グレーシア・フルララネル中心に増収を見込みまして、増益です。業績予想比では、ほぼ前回予想並みということになります。

ヘルスケア、これは業績予想比では予想通りでございますが、前年対比で言えば、一部来期への期前減収影響により、ファインテックが減収となり、7 億円の減益ということとなります。

以上が下期でございまして、一番下段が通期ということになります。

先ほど申し上げましたように、37 億円の減収、うち 42 億円が半導体ということは先ほどご説明の通りでございます。

以下、化学品でマイナス 6 億円、機能性ではマイナス 21 億円、農業化学品ではプラス 2 億円、ヘルスケアでマイナス 4 億円といったような形になります。

営業外損益・特別損益の内訳 前年同期比

(億円)

	2022年度 実績			2023年度 予想 (2023年11月発表)			前年同期比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
受取利息・配当金	4.5	10.8	15.3	4.4	11.1	15.5	-0.1	+0.3	+0.2
持分法投資損益	6.2	8.7	14.9	4.0	2.8	6.8	-2.2	-5.9	-8.1
為替差損益※1	30.2	-17.2	13.0	18.8	0.0	18.8	-11.4	+17.2	+5.8
支払利息	-0.9	-1.6	-2.5	-2.6	-4.0	-6.6	-1.7	-2.4	-4.1
固定資産処分損他	-1.7	-3.9	-5.6	-3.6	-4.3	-7.9	-1.9	-0.4	-2.3
営業外損益	38.3	-3.2	35.1	21.0	5.6	26.6	-17.3	+8.8	-8.5
特別利益	0.0	14.6	14.6	6.0	6.0	12.0	+6.0	-8.6	-2.6
特別損失	0.0	-6.5	-6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	+6.5	+6.5
特別損益※2・3	0.0	8.1	8.1	6.0	6.0	12.0	+6.0	-2.1	+3.9

※1 為替レート(円/ドル): 22/3末 122.41、22/9末 144.81、23/3末 133.54、23/6末 144.99、23/9末 149.58

※2 2022年度年間実績:

特別利益+14.6億円(有価証券売却益14.6億円)

特別損失-6.5億円(出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損6.5億円)

※3 2023年度年間予想(2023年11月発表):

特別利益+12.0億円(有価証券売却益12.0億円)

| 14

続きまして 14 ページ、ここは営業外損益と特別損益の内訳、まず前年同期比でございます。

真ん中の列、青い部分が今回の上期実績と、それから通期の数字ということになりまして、一番右が前年同期比でございますが、営業外損益でいえば、8.5億円の減益要因となります。ただ、為替差損益では若干のプラスということを年間では想定いたします。

特別損益につきましては、こちら前回の5月の予想から変えておりませんが、この上期につきましては、特別利益、有価証券売却益ということで6億円、これは予定通り実行済みでございます。年間では12億円を計画しているということも変わりません。

営業外損益・特別損益の内訳 前回業績予想比

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 予想 (2023年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
受取利息・配当金	3.6	7.4	11.0	4.4	11.1	15.5	+0.8	+3.7	+4.5
持分法投資損益	6.5	4.5	11.0	4.0	2.8	6.8	-2.5	-1.7	-4.2
為替差損益※1	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	18.8	+18.8	0.0	+18.8
支払利息	-2.8	-2.5	-5.3	-2.6	-4.0	-6.6	+0.2	-1.5	-1.3
固定資産処分損他	-5.1	-3.8	-8.9	-3.6	-4.3	-7.9	+1.5	-0.5	+1.0
営業外損益	2.2	5.6	7.8	21.0	5.6	26.6	+18.8	0.0	+18.8
特別利益	6.0	6.0	12.0	6.0	6.0	12.0	0.0	0.0	0.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益※2	6.0	6.0	12.0	6.0	6.0	12.0	0.0	0.0	0.0

※1 為替レート(円/ドル): 22/3末 122.41、22/9末 144.81、23/3末 133.54、23/6末 144.99、23/9末 149.58

※2 2023年度年間予想(2023年11月発表): 23年5月発表から変更なし

特別利益+12.0億円(有価証券売却益12.0億円)

| 15

続きまして 15 ページ、ここは営業外損益と特別損益の前回業績予想比ということで、後ほどご覧
ください。

1 点だけ、営業外損益の一番右の列ですね、年間で言いますと 19 億円ほど、前回予想から上ぶれ
ております。これは通常、年初の計画では為替差損益をゼロで置いておりますが、この上期のドル
高によりまして、19 億円ほどのプラスが出ているということでございます。特別損益は変わりご
ざいませぬ。

2023年度年間予想のフリー・キャッシュ・フローは152億円、前年同期3億円の減少

(億円)

	2022年度 実績		2023年度 予想 (2023年11月発表)		前年同期比	2023年度 年間予想 (2023年5月発表)
	上期	年間	上期実績	年間	年間	
営業活動によるキャッシュ・フロー	433	352	360	351	-1	452
税金等調整前純利益	320	566	268	525	-41	562
特別損益(マイナスは益)	0	-8	-6	-12	-4	-12
減価償却費※1	51	110	59	144	+34	129
法人税等の支払	-85	-154	-86	-160	-6	-149
運転資金増減他	147	-162	125	-146	+16	-78
投資活動によるキャッシュ・フロー	-96	-197	-85	-199	-2	-208
設備投資※2	-90	-194	-110	-225	-31	-225
投資有価証券購入・売却	-5	20	7	16	-4	19
その他	-1	-23	18	10	+33	-2
フリー・キャッシュ・フロー	337	155	275	152	-3	244
財務活動によるキャッシュ・フロー	-292	-250	-362	-188	+62	-269
株主還元(配当)	-102	-201	-132	-290	+1	-320
株主還元(自己株式取得)	-50	-90	-50			
借入金増減	-139	42	-180	102	+60	51
その他	-1	-1	0	0	+1	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	13	3	0	-13	0
現金及び現金同等物の増減額	61	-82	-84	-36	+46	-25
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	31	31	0	0	-31	0
現金及び現金同等物の残高	439	296	212	260	-36	271

※1 のれん償却費を含む

※2 無形資産を含む

16

16 ページ、キャッシュ・フローでございます。

真ん中のやや右に 2023 年度 11 月発表、年間というところがございます。その一つ左隣が上期実績ということになりますが、年間の前年同期比、一つ右隣の列と比較していただきますと、フリー・キャッシュ・フローでは昨年の同期からほぼ変わらずということになります。

営業活動によるキャッシュ・フローは 351 億円、対しまして投資活動で約 200 億円のキャッシュアウトでございます。財務活動によるキャッシュ・フローは、株主還元でキャッシュアウトの一方で、借入金としては若干のキャッシュインがございます。最終的には 260 億円の現預金を想定するというので、引き続きキャッシュ・フローの潤沢さに変わりはありません。

貸借対照表

(億円)

	2022年9月末	2023年3月末	2023年9月末	前期末比
流動資産	1,718	1,894	1,722	-172
現預金	439	296	212	-84
売上債権	608	827	683	-144
たな卸資産	588	647	738	+91
その他	83	124	89	-35
固定資産	1,084	1,093	1,199	+106
有形固定資産	607	647	759	+112
無形固定資産	118	115	113	-2
投資有価証券	299	273	270	-3
その他	60	58	57	-1
資産合計	2,802	2,987	2,921	-66

	2022年9月末	2023年3月末	2023年9月末	前期末比
負債	608	772	662	-110
買入債務	190	199	198	-1
借入金	97	273	120	-153
その他	321	300	344	+44
純資産	2,194	2,215	2,259	+44
株主資本 ^{※1}	2,053	2,088	2,102	+14
^{※2} 其他有価証券評価差額金	87	77	83	+6
為替換算調整勘定	19	17	38	+21
非支配株主持分	31	31	35	+4
退職給付に係る調整累計額	4	2	1	-1
負債純資産合計	2,802	2,987	2,921	-66

自己資本比率	77.2%	73.1%	76.1%
D/レシオ ^{※2}	-16.7%	-1.1%	-4.4%

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2022年9月末	2023年3月末	2023年9月末	前期末比
上場株式 ^{※3}	193	169	174	+5
(単体ベース保有銘柄数)	(30)	(26)	(26)	(0)
非上場株式	32	24	26	+2
関係会社株式	74	80	70	-10
合計	299	273	270	-3
純資産に占める 政策保有株式の割合 ^{※4}	9.5%	7.9%	8.0%	

参考

	2018年3月末
上場株式	300
(単体ベース保有銘柄数)	(55)
非上場株式	17
関係会社株式	68
合計	385
純資産に占める 政策保有株式の割合	17.0%

※1 株主資本増減 +14 = 純利益195 - 配当その他181 ※2 D/レシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※3 23/3末 169 + 取得0 + 売却・評価差額5 = 23/9末 174 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)

17

17 ページはバランスシートでございます。

ここも簡単に申し上げますと、左の上が資産の部ということでございますが、棚卸資産が 90 億円ほど 3 月末対比で増えております。

また有形固定資産も、NCK、韓国での半導体の工場といったようなところで増えているということでございますが、売上債権は、上期は例年通り回収期でございますので、減っています。結果、資産としては 60 億円ほどの減少でした。

一方、右の負債サイド・純資産につきましては、借入金が 153 億円、3 月末比で減っておりますが、これも売上の回収に応じて、借入金を減らしているというところは通常通りのオペレーションでございます。結果、自己資本比率は、この上期 9 月末では 76.1%ということになります。

左下、投資有価証券の内訳は、今回の 9 月末段階では、純資産に占めます政策保有株式の割合は 8%ということございまして、見ていただきますと、2018 年 3 月末からほぼ半減しているということがわかりいただけるかと思っております。

研究開発費は、2020-21年度にコロナによる出張活動縮小などで減少したものの、
2022-23年度は回復を見込む

(億円)

	設備投資※1					減価償却※2						研究開発費					
	2019	2020	2021	2022	2023予 (11月発表)	2019	2020	2021	2022	2023予 (5月発表)	2023予 (11月発表)	2019	2020	2021	2022	2023予 (5月発表)	2023予 (11月発表)
化学品	29	33	43	28	50	19	22	25	25	28	27	4	3	3	3	2	2
機能性材料※3	37	30	54	90	96	52	45	39	46	54	66	77	70	70	76	76	79
農業化学品※4	78	64	17	59	55	23	26	27	28	35	34	46	44	42	43	48	42
ヘルスケア※5	7	3	7	5	4	6	5	4	4	4	4	25	24	6	4	4	4
卸売	1	2	0	1	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0
その他	3	11	3	11	19	4	5	6	7	7	12	20	24	39	42	44	43
合計	155	143	124	194	225	105	104	102	110	129	144	172	165	160	168	174	170

※1 設備投資額: キャッシュ・フローベース

※2 減価償却法

・サンエパー、ARC®、多層材料: 4年定率(初年度50%を償却)

・その他製品 : 8年定率(初年度25%を償却)

※3 2022年 NCK半導体新工場(27億円)、

2023年予想(2023年11月発表) NCK半導体新工場(62億円)を含む

※4 2019年クインテック買収(63億円)、2020年ダイセン買収(54億円)、2022年NBR 第1期工事(43億円)、

2023年予想(2023年11月発表) 製造設備(26億円)を含む

※5 2022年4月に組織改定を実施(p79,p80参照)

設備投資: 2019-21数字は旧医薬品セグメント

減価償却・研究開発費: 2019-20数字は旧医薬品セグメント。2021はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み

次、18 ページは後ほどご覧いただければと思いますが、1 点だけ、今回設備投資の※1 という脚注
にございますように、今回からキャッシュ・フローベースの数字ということで、数字の集計の仕方
を変えております。

主要な設備投資※1一覽

(億円)

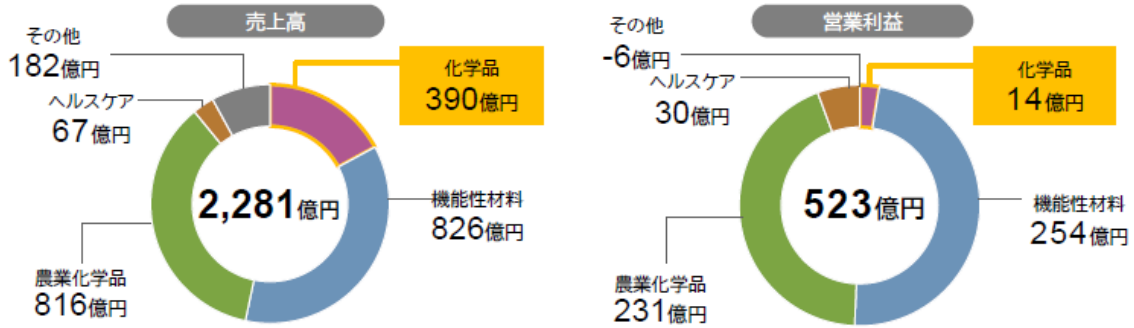
2020年度 実績		2021年度 実績		2022年度 実績		2023年度 予想 (11月発表)	
項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額
材料研(機器)	14	農業(製造設備)	43	NBR 農業 ^{※2} (製造設備)	43	NCK 半導体 ^{※3} (製造設備)	62
デジタル関連	11	デジタル関連	13	NCK 半導体 ^{※3} (製造設備)	27	デジタル関連	17
農業(製造設備)	9	物質研(機器)	7	デジタル関連	15	ST(製造設備)	12
半導体分析機器	8	材料研(機器)	5	物質研(機器)	9	農業(製造設備)	12
物質研(機器)	7	DP(製造設備)	3	材料研(機器)	7	物質研(機器)	10
NCK 半導体 (製造設備)	4	生物科学研(機器)	3	DP(製造設備)	5	材料研(機器)	6
生物科学研(機器)	2			生物科学研(機器)	4	生物科学研(機器)	3

※1 主要投資額：注記があるものを除き、すべて承認ベース ※2 NBR 第1期工事(キャッシュ・フローベース) ※3 NCK半導体新工場(キャッシュ・フローベース)

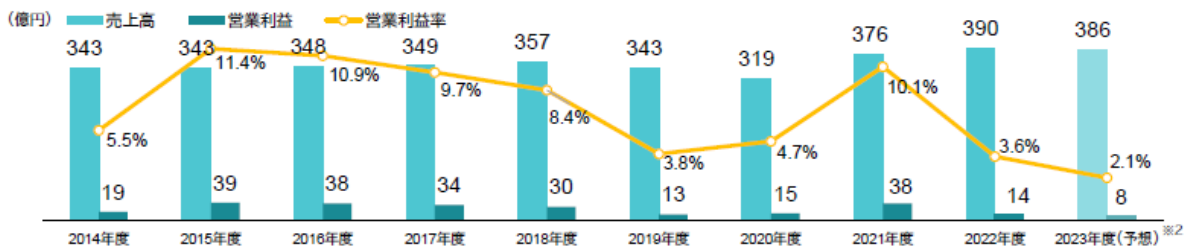
19 ページも後ほどご覧ください。

また 20 ページから、今度はセグメント概況ということになりますが、数字の羅列になっておりまして、21 ページ、22 ページは上期の前年同期比、並びに業績予想比のセグメント別、また 23、24 は、通期の YoY、並びに業績予想比ということになっておりますので、後ほどご確認ください。

2022年度セグメント別業績



化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014~2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p79,p80参照)
 ※2 予想は2023年11月発表

それでは以下、各セグメントに分けて簡単に上期実績と今回の見直し後の予想値につきましてご説明いたします。まず化学品でございます。25 ページは概況となります。

- ファインケミカルは、上期で22%減収、業績予想比でも下ぶれ。2023年度年間では4%減収予想
- 基礎化学品は、上期で1%減収、業績予想比でも下ぶれ。2023年度年間では1%増収予想

主要製品	2023年度 予想(2023/5発表)					2023年度 予想(2023/11発表)				
	前年同期比					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期	年間
テピック	-61%	-26%	-47%	+91%	+1%	-66%	-33%	-52%	+32%	-23%
環境化学品	+15%	+14%	+14%	+17%	+16%	+16%	-9%	+4%	+19%	+11%
ファインオキシコール	-19%	-3%	-11%	+2%	-5%	-25%	-14%	-20%	+12%	-4%
ファインケミカル合計※1	-26%	-3%	-15%	+33%	+6%	-29%	-15%	-22%	+18%	-4%
メラミン※2	-100%	-100%	-100%	-100%	-100%	-100%	-100%	-100%	-100%	-100%
尿素・アドブルー®	+40%	+35%	+38%	+3%	+17%	+33%	+13%	+23%	0%	+9%
高純度硫酸	-12%	-9%	-11%	+16%	+2%	-13%	-10%	-12%	+23%	+5%
硝酸製品	+83%	+25%	+49%	+12%	+27%	+71%	+12%	+36%	+11%	+21%
基礎化学品合計※3・4	+1% (+30%)	+9% (+22%)	+5% (+26%)	+6% (+8%)	+6% (+16%)	-2% (+26%)	-1% (+11%)	-1% (+18%)	+3% (+5%)	+1% (+11%)
化学品セグメント合計※3	-10% (+4%)	+5% (+12%)	-3% (+8%)	+15% (+16%)	+6% (+12%)	-13% (+1%)	-6% (+1%)	-10% (+1%)	+7% (+9%)	-1% (+5%)

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2023年度上期実績ファインケミカル売上高に占める割合：83%

※2 メラミンは2022年6月に生産停止、12月販売終了(p33参照、メラミン生産停止による構造改革)

※3 ()内伸び率はメラミンを除いた合計での伸び率

※4 メラミン、尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品の2023年度上期実績基礎化学品売上高に占める割合：48%

26 ページは、売上高、主要製品の成長率の数字でございます。左側の5月発表の前の予想値に対しまして、今回見直し後というのが右側のブルーのところになります。

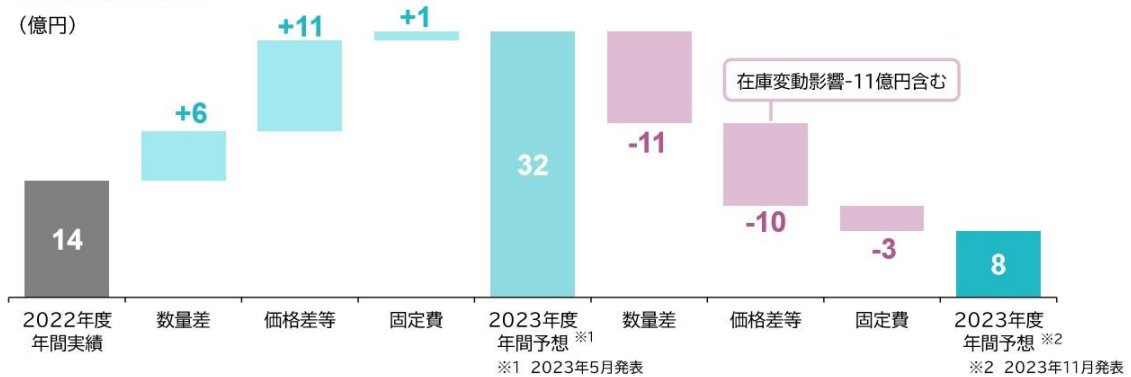
見ていただきますと、ファインケミカルは、まずテピックの減収が大きく、上期で22%減、また業績予想比でも下ぶれとなりました。下期もテピック中心に下方修正いたしまして、2023年度年間では4%の減収を予想いたします。

基礎化学品は、上期では1%の減収、また業績予想比でも下ぶれとなりまして、年間では1%の増収ということを想定いたします。

結果、セグメント全体では年間1%の減収ということになります。

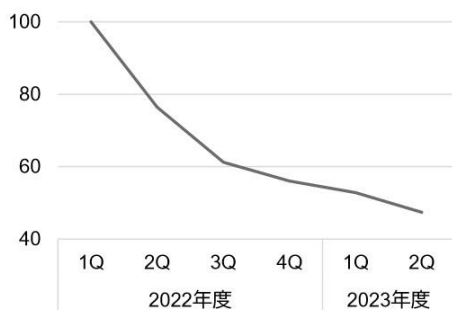
■ 営業利益増減分析

(億円)



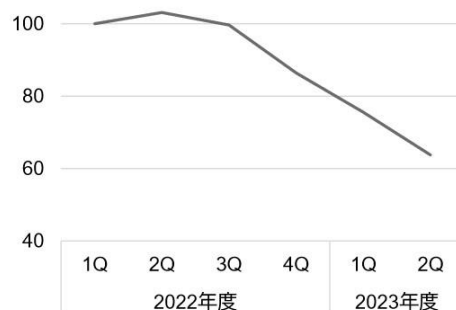
■ テピック 市況価格(中国競合品)

2022年度1Qの価格を100とした推移



■ 尿素 市況価格(中国競合品)

2022年度1Qの価格を100とした推移



27

次、27 ページでございますが、この化学品セグメントにつきましては、今回営業利益の下方修正が大きいため、この中身を増減分析しております。これが上段のグラフでございます。

このグラフを見ていただきますと、年初で見えておりました昨年対比での数量増、あるいは価格上昇に対しまして、主としてテピックの数量減に加えまして、在庫変動影響もございまして、一番右のような下ぶれということとなります。

また下のグラフでは、中国品が安値で市場にかなり流入してきているということをお示しするものとして、左側テピック、これは中国競合品の市況価格を2022年度の1Qから今年度の2Qまで、2022年度1Qを100としてお示しをしております。

また右側、尿素についても中国競合品の市況価格をお示ししております。

見ていただきますと、左のテピックでは約5割減、また右の尿素では約4割減というような状況でございます。化学品事業は、こうした背景から、今回の修正では、数量の下ぶれ、また在庫変動影響を費用サイドで織り込んでおるということでございます。

【上期】売上高-19億円、営業利益-12億円

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	104	94	198	91	88	179	-6	-19
ファインケミカル	42	35	77	30	30	60	-5	-17
基礎化学品	62	59	121	61	58	119	-1	-2
営業利益	17	-6	11	9	-10	-1	-4	-12

【上期】減収・減益	
ファインケミカル	テビック一般 需要減で減収
	テビック電材 減収
	環境化学品 増収
	ファインオキシコール 減収
	原燃料高(減益要因)、在庫変動影響2億円(減益要因)

【上期】減収・増益	
基礎化学品	メラミン 終売で減収(p33参照)
	尿素・アドブルー® 増収(メラミン停止により増販)
	高純度硫酸 半導体市場低調で減収
	硝酸製品 数量増、価格上昇により増収(22年度硝酸プラントトラブル影響)

以下、化学品セグメントのそれぞれの主要製品ごとの状況と数字につきまして、28 ページから 29 ページまでは上期、それから 30 ページ、31 ページまでは年間、並びに下期ということで、簡単に記載をしておりますので、後ほどご確認ください。

28 ページは上期実績の前年同期比です。

【上期】売上高-13億円、営業利益-13億円

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 実績			業績予想比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	94	98	192	91	88	179	-10	-13
ファインケミカル	31	34	65	30	30	60	-4	-5
基礎化学品	63	64	127	61	58	119	-6	-8
営業利益	9	3	12	9	-10	-1	-13	-13

【上期】売上高・営業利益とも下ぶれ

ファインケミカル

- テビック一般 数量減により売上高下ぶれ
- テビック電材 売上高下ぶれ
- 環境化学品 数量減により売上高下ぶれ
- ファインオキシコール 売上高下ぶれ

在庫変動影響4億円(減益要因)

【上期】売上高・営業利益とも下ぶれ

基礎化学品

- 尿素・アドブルー® 価格下落により売上高下ぶれ
- 高純度硫酸 売上高予想通り
- 硝酸製品 売上高下ぶれ

在庫変動影響2億円(減益要因)

29 ページは上期実績の業績同期比です。

【年間】売上高-4億円、営業利益-6億円

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想 (2023年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	198	101	91	192	390	179	105	102	207	386	-19	+4	+11	+15	-4
ファインケミカル	77	33	28	61	138	60	37	35	72	132	-17	+4	+7	+11	-6
基礎化学品	121	68	63	131	252	119	68	67	135	254	-2	0	+4	+4	+2
営業利益	11	4	-1	3	14	-1	4	5	9	8	-12	0	+6	+6	-6

【年間】減収・減益

ファインケミカル	テビック一般	需要減で減収
	テビック電材	減収
	環境化学品	数量増により増収
	ファインオキシコール	減収
	在庫変動影響8億円(減益要因)	

【年間】増収・増益

基礎化学品	メラミン	終売で減収(p33参照)
	尿素・アドブルー®	増収(メラミン停止により増販)
	高純度硫酸	価格上昇で増収
	硝酸製品	数量増、価格上昇により増収 (22年度硝酸プラントトラブル影響)
	原燃料安(増益要因)、在庫変動影響2億円(減益要因)	

30 ページは年間予想の前年同期比です。

【下期】売上高-14億円、営業利益-11億円

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 予想 (2023年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	192	221	413	179	207	386	-13	-14	-27
ファインケミカル	65	82	147	60	72	132	-5	-10	-15
基礎化学品	127	139	266	119	135	254	-8	-4	-12
営業利益	12	20	32	-1	9	8	-13	-11	-24

【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

ファインケミカル

- テビック一般 数量減により売上高下ぶれ
- テビック電材 売上高下ぶれ
- 環境化学品 売上高予想通り
- ファインオキソコール 価格上昇により売上高上ぶれ

在庫変動影響10億円(減益要因)

【下期】売上高下ぶれ・営業利益上ぶれ

基礎化学品

- 尿素・アドブルー® 価格下落により売上高下ぶれ
- 高純度硫酸 価格上昇により売上高上ぶれ
- 硝酸製品 売上高予想通り

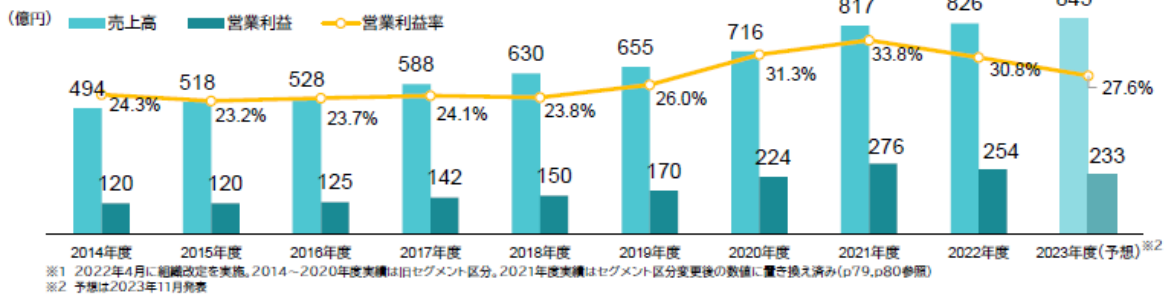
在庫変動影響5億円(増益要因)

31 ページは下期の今回予想について、前回予想と比較しています。

2022年度セグメント別業績



機能性材料セグメント業績推移^{※1}



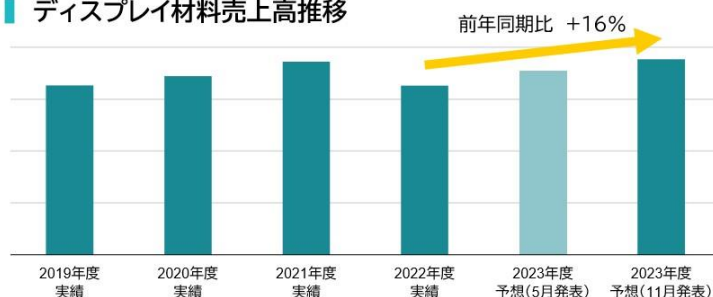
参考 機能性材料R&D説明会[☑](2022年6月21日発表)

続きまして、機能性材料でございます。34 ページまで飛んでいただいて、こちらはセグメント概況となります。

機能性材料サブセグメント売上高構成(2022年度実績)



ディスプレイ材料売上高推移



- 2022年度を底として市場回復
- 他モード(ラビングIPSなど)から光IPSへの転換は順調に進む

半導体材料売上高推移



- 2023年度は一時的な調整局面にあるが、中長期での成長トレンドは不変
- EUV材料は顧客生産増により伸長

35 ページ、売上高の推移ということで、ディスプレイと半導体のところをフォーカスして載せております。

ちなみに 2022 年度の売上高の機能性材料に占めるサブセグメント、三つのサブセグメントの割合は、このドーナツ型のバーチャートの通りでございます。

真ん中のグラフ、これはディスプレイ材料の売上高推移を 2019 年度からお示ししております。見ていただきますと、2022 年度実績に対しまして、今期は 16%の伸びということを想定いたします。これは 5 月の業績予想値からもさらに 6%ほど上ぶれということになります。2022 年度を底としまして、市場回復が見られてきているという状況でございます。また他のモードから光 IPS への転換も順調に進むと考えております。

一番下、半導体材料の売上高推移でございます。ここはこのグラフがお示ししている通り、2022 年度実績に対しまして、今期は 8%の売上減ということを想定いたします。年初は、昨年対比でプラス 4%という計画でございましたが、足元の状況を踏まえまして、今回マイナス 8%という見立てでございます。このように、2023 年度は一時的な調整局面でございますが、中長期での成長トレンドは不変という認識でございます。

また特に EUV 材料につきましては、こういった調整局面の中でも顧客の生産等によりまして伸長しているという状況でございます。

機能性材料セグメント 主要製品売上高成長率



- ディスプレイ材料は、2023年度上期で17%増収、業績予想比でも上ぶれ。2023年度年間で16%増収予想
- 半導体材料は、2023年度上期で19%減収、業績予想比でも下ぶれ。2023年度年間で8%減収予想
- 無機コロイドは、2023年度上期で6%減収、業績予想比でも下ぶれ。2023年度年間で3%減収予想

主要製品	2023年度 予想(2023/5発表)					2023年度 予想(2023/11発表)				
	前年同期比					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期	年間
サンエバー	-7%	+28%	+8%	+8%	+8%	+4%	+35%	+17%	+14%	+15%
ディスプレイ材料合計	-7%	+28%	+8%	+9%	+9%	+3%	+35%	+17%	+15%	+16%
ARC®	-11%	-6%	-8%	+18%	+4%	-18%	-26%	-22%	+1%	-11%
多層材料	-4%	-19%	-12%	+9%	-2%	-15%	-32%	-24%	+9%	-9%
EUV材料※1	-6%	+4%	-1%	+45%	+21%	+15%	+14%	+15%	+39%	+27%
半導体材料合計	-9%	-8%	-9%	+18%	+4%	-15%	-23%	-19%	+6%	-8%
スノーテックス	+7%	+7%	+7%	+12%	+10%	0%	-8%	-4%	+2%	-1%
オルガノゾル・モノマーゾル	+18%	-15%	+1%	+11%	+6%	-7%	-17%	-12%	+8%	-3%
オイル&ガス材料	+21%	+5%	+12%	-16%	-5%	+49%	-46%	-3%	+3%	0%
無機コロイド合計	+8%	0%	+4%	+6%	+5%	+3%	-14%	-6%	-1%	-3%
機能性材料セグメント合計	-6%	+5%	-1%	+13%	+6%	-4%	-3%	-4%	+8%	+2%

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

| 36

次、36 ページは、機能性材料セグメントにおきます主要製品の売上高の成長率でございます。

下の表を見ていただきますと、ブルーのところが今回の見直し後ということになりますが、ディスプレイ材料は、2023 年度上期で 17%の YoY の増収、業績予想比でも上ぶれということになります。2023 年度年間では、先ほど申し上げましたように、16%の増収を想定いたします。

一方、半導体は、2023 年度上期では 19%の減収、また業績予想比でも下ぶれ、年間では 8%の減収というのは先ほど申し上げた通りでございますが、2023 年の上期、これがボトムというような数字でございます。

最後に、無機コロイドはここに記載の通りということでございます。

【上期】売上高-15億円、営業利益-28億円、固定費増加合計18億円(共通費用増加1億円含む)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	218	202	420	208	197	405	-5	-15
営業利益	79	60	139	65	46	111	-14	-28

【上期】増収・増益	
ディスプレイ	光IPS 増収 (スマホ・大型モニター・車載向け増収)
	ラビングIPS 増収
	VA 増収(一部シェア拡大)
ディスプレイ市場回復、固定費増加1億円	

【上期】減収・減益	
半導体	ARC® 減収
	多層材料 減収
	EUV材料 増収 (EUV下層膜が顧客生産増に伴い増収)
半導体市場低調、固定費増加14億円(主としてNCK)	

【上期】減収・増益	
無機コロイド	スノーテックス 減収(一般用途横ばい、研磨剤減収)
	オルガノ・モノマーゾル 減収
	オイル&ガス材料 減収
固定費増加2億円	

| 37

上期の前年同期比では、この37ページの冒頭にございますように、機能性全体としては、固定費が18億円増加いたしました。その中で、右下にあるように、半導体が14億円の増加で大部分を占めます。ここは主として韓国、NCKでのコスト増ということになります。

【上期】売上高-12億円、営業利益-16億円

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 実績			業績予想比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	205	212	417	208	197	405	-15	-12
営業利益	66	61	127	65	46	111	-15	-16

【上期】売上高・営業利益とも上ぶれ

ディスプレイ	光IPS	売上高上ぶれ (スマホ・大型モニター向け上ぶれ)
	ラビングIPS	売上高上ぶれ
	VA	売上高上ぶれ
ディスプレイ市場回復		

【上期】売上高・営業利益とも下ぶれ

半導体	ARC®	売上高下ぶれ
	多層材料	売上高下ぶれ
	EUV材料	売上高上ぶれ
半導体市場低調		

【上期】売上高・営業利益とも下ぶれ

無機コロイド	スノーテックス	売上高下ぶれ(一般用途・研磨剤下ぶれ)
	オルガノ・モノマーゾル	売上高下ぶれ
	オイル&ガス材料	売上高下ぶれ

| 38

38 ページは上期実績の業績同期比です。

【年間】売上高+19億円、営業利益-21億円、固定費増加合計実質29億円

	2022年度 実績					2023年度 予想 (2023年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	420	206	200	406	826	405	212	228	440	845	-15	+6	+28	+34	+19
営業利益	139	69	46	115	254	111	58	64	122	233	-28	-11	+18	+7	-21

【年間】増収・増益

ディスプレイ

- 光IPS 増収(スマホ・大型モニター・車載向け増収)
- ラビングIPS 増収
- VA 増収(一部シェア拡大)
- ディスプレイ市場回復、固定費増加4億円

【年間】減収・減益

半導体

- ARC® 減収
- 多層材料 減収
- EUV材料 増収
(EUV下層膜が顧客生産増に伴い増収)
- 半導体市場低調、固定費増加実質21億円(主としてNCK)

【年間】減収・減益

無機
コロイド

- スノーテックス 横ばい(一般用途増収・研磨剤減収)
- オルガノ・モノマーソル 減収
- オイル&ガス材料 横ばい
- 固定費増加4億円

| 39

次に 39 ページでございますが、ここも固定費ということで、冒頭書いている通り、年間では 29 億円の固定費増加というのが機能性全体の数字となります。うち、半導体で 21 億円増加する想定です。

【下期】売上高-18億円、営業利益-16億円、固定費上ぶれ合計実質5億円(減益要因)

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 予想 (2023年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	417	458	875	405	440	845	-12	-18	-30
営業利益	127	138	265	111	122	233	-16	-16	-32

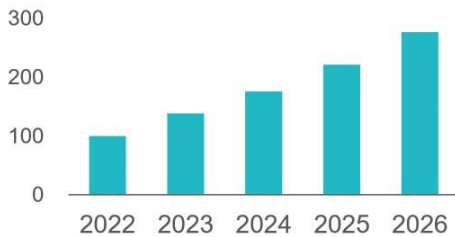
ディスプレイ	【下期】売上高・営業利益とも上ぶれ	
	光IPS	売上高上ぶれ (スマホ・大型モニター向け上ぶれ)
	ラビングIPS	売上高上ぶれ
	VA	売上高上ぶれ
ディスプレイ市場回復、固定費上ぶれ1億円		

半導体	【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ	
	ARC®	売上高下ぶれ
	多層材料	売上高予想通り
	EUV材料	売上高下ぶれ
半導体市場低調、固定費上ぶれ実質2億円		

無機 コロイド	【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ	
	スノーテックス	売上高下ぶれ(一般用途・研磨剤下ぶれ)
	オルガノ・モノマーソル	売上高下ぶれ
	オイル&ガス材料	売上高上ぶれ
固定費上ぶれ2億円		

業績予想比は 40 ページを後ほどご覧ください。

AIサーバー市場予測
(2022年を100とした場合の推移)

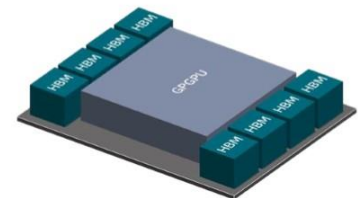


生成AI(人工知能)の
需要拡大

サーバーやデータセンターで
HBMの需要高まり※1

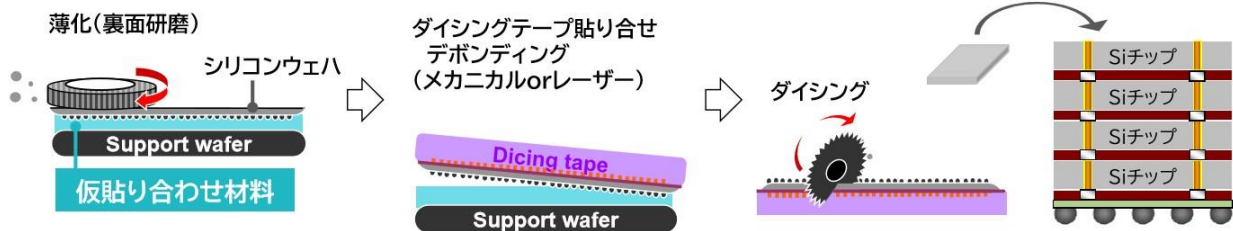
HBM向け仮貼り合わせ材料の
売上也市場の成長と共に増加

生成AI向けGPGPUへの
HBM3型DRAM搭載イメージ



※1 生成AIの拡大に伴い、大量のデータを一度に処理できる
ハイスペックなメモリが必要となった

TSV※2 プロセス(ウェハ薄化)と仮貼り合わせ材料



※2 TSV (Through Silicon Via / シリコン貫通電極)

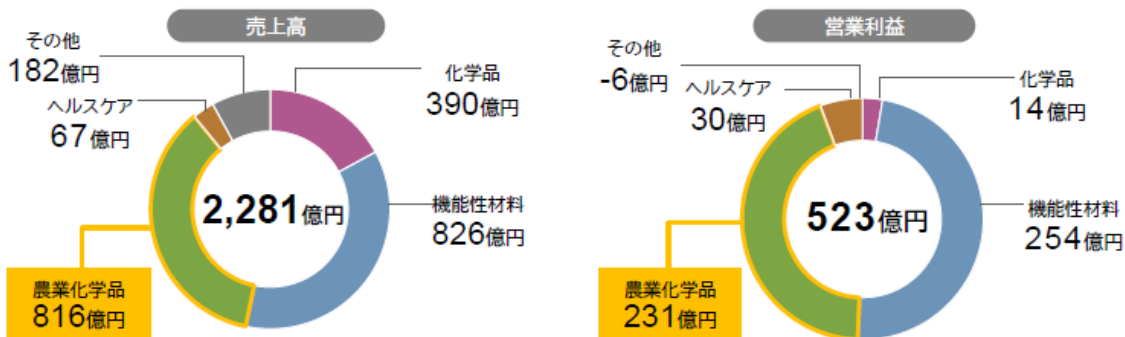
41

最後に、この機能性材料、特に半導体材料につきまして、今後当社が期待しているというものの一つに、三次元実装材料、仮貼り合わせ材料と呼んでいるものがございます。

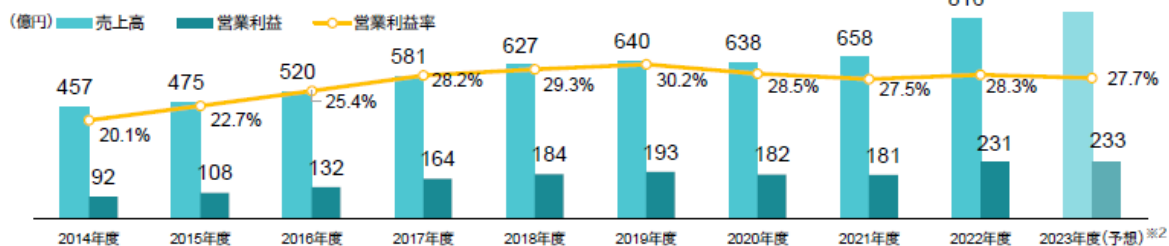
上段にございますように、AIサーバーの市場予測を見ますと、かなり伸びていくと言われております。そういった中で、当然生成AIの需要拡大が予想されます。サーバーやデータセンターでHBMの需要高まり、これは具体的には大量のデータを一度に処理できるハイスペックなメモリが必要となってくるという想定でございまして、このHBM向けの当社仮貼り合わせ材料の売上というも市場の成長とともに増加するというふうに想定しております。

具体的な当社の材料につきましては、下の絵の通りでございまして、

2022年度セグメント別業績



農業化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p79,p80参照)

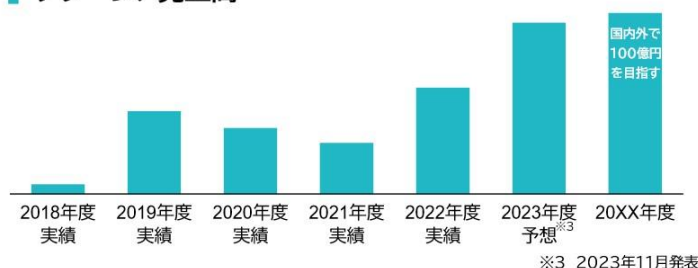
※2 予想は2023年11月発表

続きまして、農業化学品でございます、42 ページは概況です。

- 2023年度上期で1%減収、業績予想比でも下ぶれ。2023年度年間で3%増収予想
- (参考)国内農薬市場の出荷金額は2023年4-8月で前年割れ(農薬工業会データ)

主要製品名 (農業:2022年度売上高順)	種類	2023年 予想(2023/5発表)					2023年 予想(2023/11発表)					
		前年同期比					前年同期比					
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期	年間	
農業	ラウンドアップ※1	除草剤	+2%	+13%	+7%	+6%	+6%	-14%	-3%	-10%	+5%	-2%
	アルテア	除草剤	+12%	+17%	+13%	+9%	+10%	-7%	-57%	-17%	+1%	-3%
	タルガ	除草剤	-17%	-25%	-20%	-9%	-14%	+10%	-15%	+1%	-3%	-1%
	ライメイ	殺菌剤	-46%	+72%	-6%	+4%	+1%	-60%	-22%	-47%	0%	-17%
	グレース	殺虫剤	+58%	+84%	+70%	+21%	+37%	+87%	+142%	+113%	+36%	+61%
	ダイセン	殺菌剤	-23%	+3%	-12%	-1%	-5%	-21%	+20%	-3%	+6%	+3%
	パーミット	除草剤	-4%	+51%	+36%	-36%	0%	+9%	+36%	+28%	-26%	+1%
動物薬	フルララネル	動物薬	-3%	-1%	-2%	+10%	+3%	-4%	+15%	+5%	+14%	+9%
セグメント合計※2		-	-3%	+10%	+3%	+3%	+3%	-5%	+3%	-1%	+6%	+3%

グレース売上高



参考

ラウンドアップの現状説明会資料 (2020年1月22日発表)
 農業化学品事業説明会資料 (2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2023年度上期のラウンドアップ売上高全体の32%を占める
 ※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

43 ページ、これはいつもの主要製品の売上高成長率というものを示しております。この上期は、YoYで1%の減収でございました。業績予想比でも下ぶれということになっております。

一方、2023年度年間では3%の増収ということを予想しておりまして、ここは5月の予想から変えておりません。

ただ中身を見ていただきますと、上段のラウンドアップ、あるいはアルテアといった国内向けがこの上期の減収としては比較的大きくなっております。ここに参考として、国内農薬市場の出荷金額が4月から8月までで、農薬工業会のデータでは前年割れと記載しております。国内市場全般の前年割れの影響を当社も受けているということになります。

一方、グレースでございますが、左下の棒グラフの通り、今期も順調に伸びるという計画でございます。率で申し上げますと、年間では前年対比でプラス61%ということで、上方修正をしております。

また、動物薬フルララネルでございますが、年初は年間で3%の伸びという想定でございました。実際は上期の実績としましては、YoYでプラス5%でございました。この下期もプラスということで、年間ではプラス9%の伸びを想定しております。

農業化学品セグメント

2023年度上期決算 前年同期比



【上期】売上高-4億円、営業利益-5億円、固定費増加8億円

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	197	160	357	188	165	353	+5	-4
営業利益	68	53	121	66	50	116	-3	-5

主要製品	製品名	変動
	ラウンドアップ(除草剤)	減収(天候不良や流通在庫影響によりML・ALともに数量減)
	アルテア(除草剤)	減収(国内:横ばい、輸出:韓国向け減収)
	タルガ(除草剤)	横ばい
	ライメイ(殺菌剤)	減収(輸出:流通在庫影響により欧州向け数量減)
	グレーション(殺虫剤)	増収(国内:増収、輸出:アジアでの拡販)
	ダイセン(殺菌剤)	減収
	パーミット(除草剤)	増収(輸出:23年度は販売が上期に偏重)
	フルララネル(動物薬)	増収(原薬:横ばい、ロイヤリティ収入:増収、一部円安影響あり)

以下 44 ページから 47 ページまで、今まで同様、この農業化学品セグメントにおきます上期、それから通期といったような数字をそれぞれの主要製品ごとにコメントを付して記載をしております。44 ページは上期実績の前年同期比です。

【上期】売上高-15億円、営業利益-4億円、固定費下ぶれ3億円(増益要因)

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 実績			業績予想比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	192	176	368	188	165	353	-11	-15
営業利益	66	54	120	66	50	116	-4	-4

主要製品	商品名	説明
	ラウンドアップ(除草剤)	売上高下ぶれ(天候不良や流通在庫影響によりML・ALともに下ぶれ)
	アルテア(除草剤)	売上高下ぶれ(国内:流通在庫影響により下ぶれ、輸出:韓国向け下ぶれ)
	タルガ(除草剤)	売上高上ぶれ(輸出:欧州で販売好調)
	ライメイ(殺菌剤)	売上高下ぶれ(国内:下ぶれ、輸出:流通在庫影響により欧州向け下ぶれ)
	グレースシア(殺虫剤)	売上高上ぶれ(輸出:アジアでの拡販)
	ダイセン(殺菌剤)	売上高上ぶれ
	パーミット(除草剤)	売上高下ぶれ(輸出:流通在庫影響により下ぶれ)
	フルララネル(動物薬)	売上高上ぶれ(原薬・ロイヤリティ収入ともに上ぶれ、一部円安影響あり)

45 ページは、上期実績の業績予想比です。

【年間】売上高+24億円、営業利益+2億円、固定費増加16億円

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想 (2023年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	357	131	328	459	816	353	139	348	487	840	-4	+8	+20	+28	+24
営業利益	121	31	79	110	231	116	29	88	117	233	-5	-2	+9	+7	+2

主要製品	製品名	変動
	ラウンドアップ(除草剤)	減収(ML:天候不良や流通在庫影響により数量減、AL:横ばい)
	アルテア(除草剤)	減収(国内:横ばい、輸出:韓国向け減収)
	タルガ(除草剤)	横ばい
	ライメイ(殺菌剤)	減収(輸出:流通在庫影響により欧州向け数量減)
	グレーシア(殺虫剤)	増収(国内:増収、輸出:アジアでの拡販)
	ダイセン(殺菌剤)	増収(輸出:韓国向け増収)
	パーミット(除草剤)	横ばい
	フルララネル(動物薬)	増収(原薬・ロイヤリティ収入ともに増収、一部円安影響あり)

46 ページは、年間予想の前年同期比を記載しております。

【下期】売上高+13億円、営業利益+1億円、固定費上ぶれ8億円(減益要因)

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 予想 (2023年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	368	474	842	353	487	840	-15	+13	-2
営業利益	120	116	236	116	117	233	-4	+1	-3

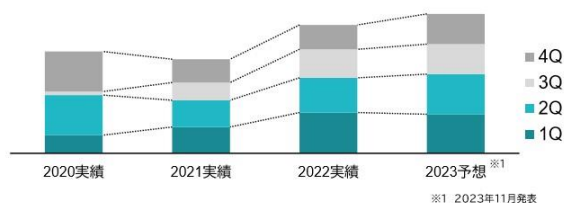
主要製品		
	ラウンドアップ(除草剤)	売上高予想通り
	アルテア(除草剤)	売上高下ぶれ(国内:下ぶれ)
	タルガ(除草剤)	売上高上ぶれ(輸出:インド向け上ぶれ)
	ライメイ(殺菌剤)	売上高下ぶれ(輸出:流通在庫影響により欧州向け数量減)
	グレーシア(殺虫剤)	売上高上ぶれ(国内:上ぶれ、輸出:アジアでの拡販)
	ダイセン(殺菌剤)	売上高上ぶれ(国内:売上高予想通り、輸出:韓国向け上ぶれ)
	パーミット(除草剤)	売上高上ぶれ(輸出:上ぶれ)
	フルララネル(動物薬)	売上高上ぶれ(原薬:予想通り、ロイヤリティ収入:上ぶれ、一部円安影響あり)

47 ページは下期予想の前回予想比です。

■ 当社のフルララネル売上高の構成

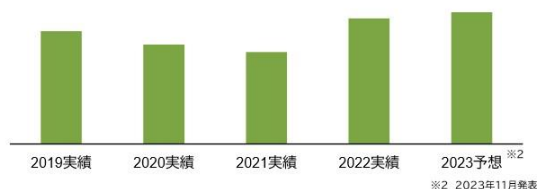
MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2020～2023年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にともない、2021年度からは各四半期に計上されている(p78参照)

■ 2019～2023年度 売上高推移イメージ (RR収入含む)



- ・フルララネルの在庫調整は2021年度で完了
- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しと円安影響により大幅増収。実績為替レートは136円/ドル
- ・2023年度の想定為替レートは142円/ドル

■ ブラベクト®の拡大に向けたMSD社の開発状況

- フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外寄生虫薬をMSD社が開発中
- 2023年5月 犬向け外部寄生虫注射剤BRAVECTO Quantum™が豪州にて承認(特徴:12か月^{※3}の効果持続性)

※3 クリイロコイタマダニは11か月

次に、51 ページのフルララネル売上高推移まで飛んでいただきます。今回アップデートいたしましたのは、いつもの通りですが、左側の2023年度予想、これは今回の11月発表の数字に更新をしております。また右側の緑の棒グラフも同様でございます。

- グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指した新たな原体生産拠点
- 計画通り設立完了し、2022年度よりNBRを連結子会社に追加。2023年3月から商業稼働を開始
- 2023年度は想定通り単体黒字化を見込む

Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設(土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農業(グレーシア、ライメイ等)原体を製造し、当社へ販売
従業員数	約120名(2023年4月1日時点)
工場稼働時期	2022年度4Qより稼働開始
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

資金計画 (2022年5月発表時点)

(億円)

設備投資	60	資本金	23
運転資金他	28	当社貸付	65
所要資金合計	88	資金調達合計	88

当社メリット

- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

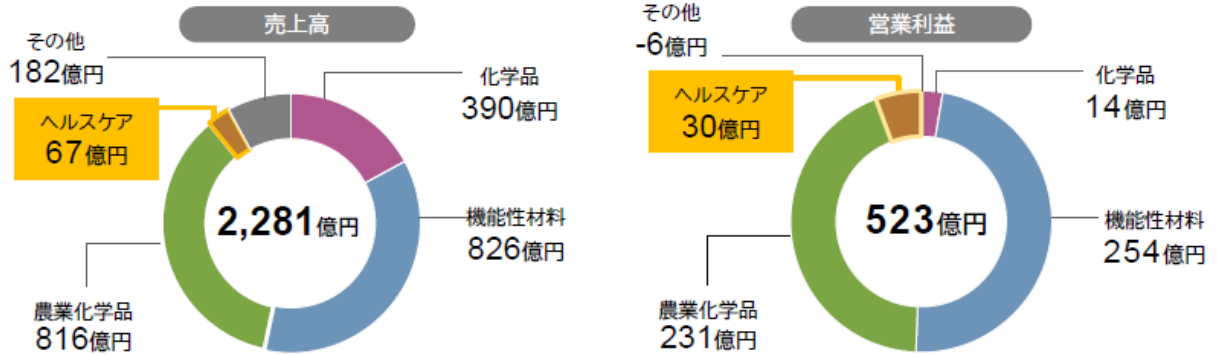
Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要

設立	1989年(インド大手農業製造販売会社)
上場	インド国立証取(NSE)、ボンバイ証取(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族74.99%
損益状況	2022年度売上高12,343百万ルピー、税引後利益1,246百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana)ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Certis Agriscienceがタルガ、バルサー、パーミットをインド国内で販売

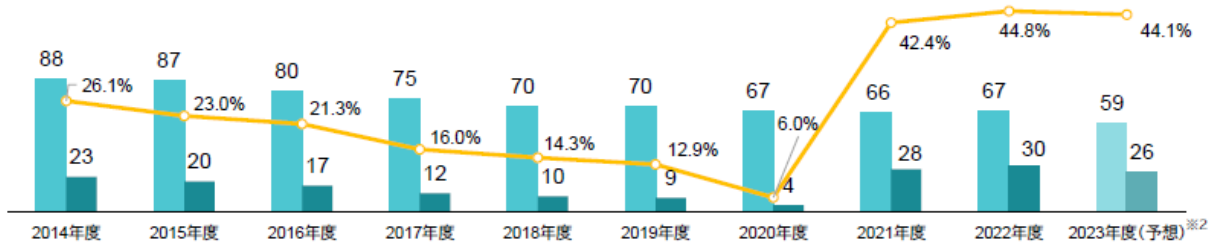
52 ページは、インドにおきます合併会社 NBR の状況を少しアップデートさせていただいております。

2022 年度から NBR が連結子会社に追加されておりますが、今年の 3 月から商業稼働を開始というところは変わっておりません。また 2023 年度は、想定通り、単体の黒字化を見込むという想定でございます。

2022年度セグメント別業績

ヘルスケアセグメント業績推移^{※1}

(億円) 売上高 営業利益 営業利益率



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み (p79,p80参照)

※2 予想は2023年11月発表

次にヘルスケアセグメントでございます。53 ページは概況です。

【上期】売上高+3.0億円、営業利益+3.5億円

(億円)

	2022年度 実績			2023年度 実績			前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	16.5	16.0	32.5	19.5	16.0	35.5	0.0	+3.0
ヘルスケア	8.3	5.9	14.2	6.1	6.8	12.9	+0.9	-1.3
ファインテック	8.2	10.1	18.3	13.4	9.2	22.6	-0.9	+4.3
営業利益	7.6	7.0	14.6	10.9	7.2	18.1	+0.2	+3.5
ヘルスケア	3.9	2.4	6.3	2.8	2.9	5.7	+0.5	-0.6
ファインテック	3.7	4.6	8.3	8.1	4.3	12.4	-0.3	+4.1

※ p21,p22,p23,p24,p76,p77では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア

【上期】減収・減益

リハロ

減収(国内・輸出とも減収)

ファイン
テック

【上期】増収・増益

今期販売は上期偏重により増収

56 ページは上期実績の前年同期比です。

【上期】売上高+3.0億円、営業利益+2.9億円

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 実績			業績予想比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	2Q	上期
売上高	18.8	13.7	32.5	19.5	16.0	35.5	+2.3	+3.0
ヘルスケア	6.1	5.6	11.7	6.1	6.8	12.9	+1.2	+1.2
ファインテック	12.7	8.1	20.8	13.4	9.2	22.6	+1.1	+1.8
営業利益	9.7	5.5	15.2	10.9	7.2	18.1	+1.7	+2.9
ヘルスケア	2.7	2.1	4.8	2.8	2.9	5.7	+0.8	+0.9
ファインテック	7.0	3.4	10.4	8.1	4.3	12.4	+0.9	+2.0

※ p21,p22,p23,p24,p76,p77では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア

【上期】売上高・営業利益とも上ぶれ

リバロ 売上高上ぶれ(国内上ぶれ、輸出下ぶれ)

ファイン
テック

【上期】売上高・営業利益とも上ぶれ

売上高上ぶれ(一部下期から上期へ出荷前倒し)

57 ページは、上期実績の業績予想比です。

【年間】売上高-7.3億円、営業利益-4.0億円

(億円)

	2022年度 実績					2023年度 予想 (2023年11月発表)					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期 実績	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	32.5	15.9	18.3	34.2	66.7	35.5	10.6	13.3	23.9	59.4	+3.0	-5.3	-5.0	-10.3	-7.3
ヘルスケア	14.2	3.5	5.8	9.3	23.5	12.9	5.8	2.9	8.7	21.6	-1.3	+2.3	-2.9	-0.6	-1.9
ファインテック	18.3	12.4	12.5	24.9	43.2	22.6	4.8	10.4	15.2	37.8	+4.3	-7.6	-2.1	-9.7	-5.4
営業利益	14.6	6.6	8.7	15.3	29.9	18.1	3.3	4.5	7.8	25.9	+3.5	-3.3	-4.2	-7.5	-4.0
ヘルスケア	6.3	1.0	2.0	3.0	9.3	5.7	2.0	0.6	2.6	8.3	-0.6	+1.0	-1.4	-0.4	-1.0
ファインテック	8.3	5.6	6.7	12.3	20.6	12.4	1.3	3.9	5.2	17.6	+4.1	-4.3	-2.8	-7.1	-3.0

※ p21,p22,p23,p24,p76,p77では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

【年間】減収・減益	
ヘルスケア	リバロ 減収(国内・輸出とも減収)

【年間】減収・減益	
ファインテック	売上高減収(23年度から24年度へ出荷後ろ倒し)

| 58

58 ページ、一番右、黄色の枠線内の数字をご覧くださいと、年間では、営業利益で4億円の減益ということがございます。

ただ右下に書いてございますように、ファインテックでは、一部、2024年度への出荷後ろ倒しという影響もございました。

【下期】売上高-4.0億円、営業利益-0.1億円

(億円)

	2023年度 予想 (2023年5月発表)			2023年度 予想 (2023年11月発表)			前回業績予想比		
	上期	下期	年間	上期 実績	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	32.5	27.9	60.4	35.5	23.9	59.4	+3.0	-4.0	-1.0
ヘルスケア	11.7	10.6	22.3	12.9	8.7	21.6	+1.2	-1.9	-0.7
ファインテック	20.8	17.3	38.1	22.6	15.2	37.8	+1.8	-2.1	-0.3
営業利益	15.2	7.9	23.1	18.1	7.8	25.9	+2.9	-0.1	+2.8
ヘルスケア	4.8	2.6	7.4	5.7	2.6	8.3	+0.9	0.0	+0.9
ファインテック	10.4	5.3	15.7	12.4	5.2	17.6	+2.0	-0.1	+1.9

※ p21,p22,p23,p24,p76,p77では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

【下期】売上高下ぶれ、営業利益予想通り

ヘルスケア

リパロ

売上高下ぶれ(国内・輸出ともに下ぶれ)

【下期】売上高・営業利益とも下ぶれ

ファイン
テック

売上高下ぶれ(23年度から24年度へ出荷後ろ倒し)

| 59

次の 59 ページでございますが、一方、年初予想比では、年間の利益で言えば 3 億円弱の上ぶれということとなります。

ESGインデックス・イニシアチブ・外部評価

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2022年12月
5年連続で構成銘柄に選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

- 2023年6月
5年連続で構成銘柄に選定



FTSE

- 2023年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に4年連続選定
- 2023年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に2年連続選定

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Company の登録商標) はここに日産化学株式会社 が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



MSCI

- 2023年6月 日本株女性活躍指数 (WIN) 4期連続構成銘柄に選定
- 2023年6月 MSCI ESG 格付け BBB から A へ格上げ

2023 CONSTITUENT MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

※ MSCI 指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおける MSCI ロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCI またはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI 指数は、MSCI の独占的財産です。MSCI および MSCI 指数の名称とロゴは、MSCI またはその関係会社の商標またはサービスマークです。

健康経営優良法人 - ホワイト500 -

- 2023年3月 7年連続認定



Morningstar

- 2023年3月 Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index の構成銘柄に選定

GPIFの運用機関が選ぶ統合報告書

- 2022年2月 「優れた統合報告書」 に2年連続選定
- 2023年2月 「改善度の高い統合報告書」 に選定

「子育てサポート企業」くるみん

- 2023年1月 2回連続認定



気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



GXリーグ

- 2023年2月に賛同表明
- 2023年4月から参画



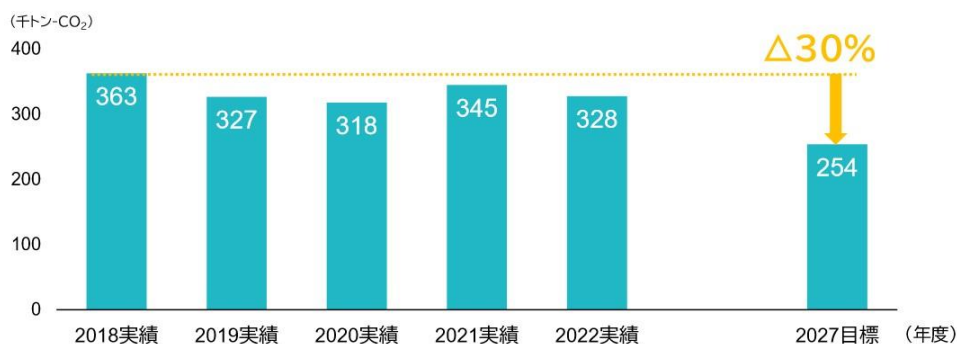
| 62

最後に ESG トピックスでございますが、62 ページまで飛んでいただきますと、ここは一部更新をしております。右上の S&P カーボン・エフィシエント指数としましては、この6月に5年連続で構成銘柄に選定されております。

また、MSCI の二つ目のところ、ESG 格付けに関しまして、シングル A ではございますけれども、この6月に1ノッチ格上げがございました。

GHG排出量の削減

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- GHG排出量2027年度目標:2018年度比30%削減(SCOPE1+2)



他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO₂)

年度	2011	2018	2019	2020	2021
日産化学	448	363	327	318	345
大手総合化学4社平均 (単体ベース)	-	-	5,845	5,581	-

中期経営計画 Vista2027

(2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

64 ページは、GHG 排出量の削減ということで、ここは前回のお示しした記載から変えておりません。

長くなりましたが、私からは以上でございます。

質疑応答

<質問者 1>

Q: 今回の下方修正により連続増益が途切れることになり、中計の営業利益目標である 2024 年度 585 億円、2027 年度 670 億円という数字もかなり遠くなったように見えます。今後の巻き返し策についてお聞かせ願えますでしょうか。

A: 現時点では、中計の目標数字を変える必要はないと思っております。ただ、中計策定時の事業環境の想定からは厳しくなっている部分もありますし、一方で、今の半導体の調整局面が未来永劫続くということでは到底ないと思います。そういった変化や見通しを見ながら、これから議論を続けていくということになるかと思えます。

Q: 全体として棚卸資産の水準が少し高いように見えるのですが、これを一気に落としてさらに利益が悪化するという懸念はないですか。

A: 棚卸資産に関しましては、この 9 月末は、確かにご指摘の通り、1 年前に比べてもかなり増えております。ここは特に農業化学品の部分が大きいわけですが、今後の販売戦略をにらんだ、また NBR 等の新しい設備も立ち上がっていく中での一時的な状況と捉えております。これを急激に落とすということは恐らくないと思いますが、今後も適正在庫水準や営業利益へのインパクトを見ながら適切にオペレーションしていきます。

Q: 承知しました。ありがとうございました。

<質問者 2>

Q: 1 点目、化学品の収益が想定以上に悪化している点について、今後の改善策について教えてください。特にテピックや尿素の市況価格が下がり、中国メーカーとの価格競争に巻き込まれているとのことで、これは一過性ではなく、今後も続くと思います。この辺りを踏まえた改善策についていかがでしょうか。

A: テピックですが、一般向けについては、粉体塗料の材料として多く使われていまして、中国、あるいは北米などで多く使用されています。こちらは建設需要などの動向に大きく影響を受けています。一方、電材向けにつきましては、ソルダーレジストインキ、または LED の封止材などの用途で使われていまして、こちらは比較的電材とか半導体の需要と連動する動きをしています。

一般向けにおいては、中国ではテピックのライバルメーカーがたくさんございますが、今までは中国国内で多くの量を消費していました。ところが建設需要が低下している中で、おそらく中国国内での需要が大幅に減退したために、今、国外に多くの品物が安値で出てきているという現象が生じています。これがいつまで続くか、非常に読みは難しいところではありますが、ここでの中国国内での建設需要の変化に応じて、価格については幾分持ち直してくるのではないかとこの予想を立てて動いています。

また、実際にこの逆風が長続きすることも少し想定しながら、工場内でコストダウン、あるいはより安価な原材料への転換等について、検討を進めている最中です。

Q: 中国品との競争激化という点に関して、テピックは、一般向けと電材向けの両方ともに中国メーカーが参入しているのでしょうか。

A: そうです、はい。

Q: わかりました。今のお話だと、結局のところ、中国の景気が回復してきて、中国国内での消費が増えてこない、状況が変わらないような感じもするのですが、工場のコストダウンなどで、ある程度、収益的な改善は期待しているのでしょうか。

A: 原料ソースを変えるということと、設備稼働の調整等でコストダウンを図る方法について今調整をしております、これによるコストダウンについても期待をしています。

Q: 2点目、半導体材料は、四半期の動きで見た場合、3Qあたりから回復を見ていらっしゃるのか、それとも4Qまでずれ込んで、3Qは2Q並みというふうに見ていらっしゃるのか。半導体の回復状況を教えてください。

A: QoQでいいますと、2Qから3Qでは、半導体全体ではプラス二桁%前半で見えています。3Qから4Qではプラス一桁%後半という想定をしております。

Q: 2Qから3Qのほうが伸び率的には高いのですね。

A: 2Qの実績数字が下がっていますので、結果的にはそうなると見えています。

Q: わかりました。ありがとうございました。

<説明者 3>

Q: 2問お願いいたします。まず1問目は、フルララネル、動物用医薬品原薬に関して、メルク社の決算ではブラベクトの7-9月期が減収だったので少し懸念をしていたのですが、本日のお話です

と、御社のフルララネルは期初計画から上方修正をされていて好調のように見えます。これはメルク社から生産計画をある程度いただいた上で、確度高く期初見立てよりも良くなっているということなのでしょうか。

A: ご指摘の通り、メルク社のブラベクトの7-9月期の数字は、若干減収となっておりますが、弊社のフルララネルの販売については、増加しています。

一部牛用の販売等が開始されているというようなプラス要因もありますし、内外部寄生虫薬の競争がある程度落ち着いてきた中で、ブラベクトの販売が安定化してきているというようなところがあるかと見ております。

Q: ありがとうございます。アニマルケア企画グループなどの組織も新設されて、開発も加速されていると思うのですが、何かそのあたりでアップデートはありますか。

A: アニマルケア企画グループでは、共同研究等、包括的な契約を進めて、研究を進展させたいと考えております。ただ、まだ数字への跳ね返りというのはすぐには出てこないと考えていますので、まずはフルララネル製品での拡販、ブラベクトの製品シリーズを拡大させていくということが最重要と考えております。

オーストラリアで注射剤の登録が取れたというようなトピックスもありますし、これが他の国へ波及することを期待しているというような状況でございます。

Q: 先ほど牛用のご言及もありましたが、過去に比べると、ある程度エグゾルト、家畜用のところも増えてきているのか、直近で、犬、猫、家畜でこういった比率になっているのか、何かヒントをいただけるものはありますか。

A: まだエグゾルト製品自身は、犬・猫用のブラベクトに比べると、圧倒的に少ない状況です。家畜向けは、まだこれから普及させるというところなので、ご理解としては、犬・猫用が圧倒的に多いとご理解いただければと思います。

Q: 2点目、農薬に関して、グローバルで今非常に需要環境が厳しくなっているかと思いますが、国内にしましては、3カ月前のお話ですと、流通在庫が6月末で整理されてきたというお話もありました。流通在庫について今はどのようにご覧になっていらっしゃるのか。

また製品別での動きをご説明いただけますか。特にグレーシアが大幅に上方修正されているところと、アルテア、ラウンドアップ、ライメイが下方修正されているところ、このあたりを中心にお願いいたします。

A：世界の農薬需要は全体的に冷え込んでおりまして、北米中心に厳しいですが、ブラジル等は、若干上向き傾向が出てきているというような状況があるかと思えます。

国内における流通在庫の状況につきましては、昨年の値上げによる生産者の買い控え、これにより当社販売に影響が出ているわけですが、当社から見た現状の在庫レベルというのは、使用者レベルではかなり低いところに来ていますし、取引先の在庫レベルもそんなに高いところにはなっていないということで、ひとえに生産者の方々の買い控えによる冷え込みの影響が大きいかと思っております。

これは特にアルテアなどの水稻除草剤の分野で顕著な傾向でございまして、グレーシアにつきましては、販売好調であるが故に、在庫レベルも非常に低く、買うほうも非常に旺盛な状態だと見ております。

ラウンドアップは、台風や休日の降雨が続いたことで販売が伸びませんでした。1Qも同じような傾向があったのですが、2Qも同じような傾向、それに加えて、8月、9月の猛暑によるホームセンターへの客足の低下といったものが、販売への影響として大きかったと見ております。現在は流通在庫のレベルは低くなってきておりますので、ラウンドアップの性能や大型規格等をPRしながら、この下期、拡販に努めていきます。

ライメイにつきましては、国内よりは海外のほうの影響が大きく、ヨーロッパが夏場非常に高温乾燥で推移したことから、ジャガイモでの使用が非常に冷え込んだという状況があり、これによる販売の下ぶれとなっています。

Q：グレーシアの上方修正の要因について、コメントをもう少しいただけますか。

A：グレーシアの上方修正は、国内の流通在庫の整理がほとんど終わり、競合剤も新たに出てきてはいますけれども、非常に効果面を高く評価してもらっているということと、新規の荷姿を上市したことによる販売の上ぶれ、これが国内は大きくなっています。

韓国も一時流通在庫水準が高くなりましたが、これも整理が終わっているということが上ぶれ要因ですし、インドにおきましては、効果を非常に高く評価していただいていることに加えて、混合剤の上市も今年実現できたというような状況もございまして。

Q：承知いたしました。ありがとうございました。

<質問者 4>

Q：半導体材料について、下期で回復へ向かうというのは、顧客からの引き合いを踏まえて、ある程度具体性のあるものなのでしょうか。また、ディスプレイ材料につきましても、パネルメーカーの稼働率が下がってきている中で、御社は計画を上方修正しましたが、この達成確度についてコメントいただけますでしょうか。

A：まず半導体材料ですが、私どもとしては、景気の悪い時になすべきことというのは、マーケットシェアをしっかりと維持、確保、伸長していくということです。そうした観点では、施策が十分に打てているものだと認識しております。結果としまして、この下期の見通しというのは、マーケットの回復が予想通りいけば、達成できるものだと考えてございます。

それからディスプレイ材料ですが、こちらは、正確なマーケット予測というのがなかなかつかみにくい部分だと思っております。現在パネルの単価が若干低下傾向にある、また稼働が少し下がり気味であるというようなところはございますが、基本、上期ベース、プラスアルファでいくであろうというようなところから、今回の見通しの数字を置いてございます。

Q：ありがとうございます。機能性材料全体で、固定費を年間で上積みしているかと思えますけれども、この中身についてご解説いただけますでしょうか。

A：期初の予想に対しまして、機能性全体で実質的に約6億円固定費が上ぶれるという想定をしております。その中身としましては、半導体材料がその半分以上を占めまして、ここは研究所等のコスト増、また工場等の償却の増加、こういったものが入っております。

Q：御社の固定費は、期初想定に比べて下ぶれることが過去傾向としては多かったように思いますが、上積みされるのはなかなか珍しいようにも感じました。何か例えばバックグラウンドにEUVの引き合いが強いとか、そういったところが紐づいているのか、そのあたりもう少し補足いただけますでしょうか。

A：今申し上げたように、研究所等の固定費の上ぶれというのは、日々研究活動を行う中で、見直しをしながら、その中で出てきた数字ということで、このぐらいの数字というのは増加としてはあるのかなという、そういう認識でございます。

Q：承知いたしました。どうもありがとうございました。

<質問者 5>

Q：棚卸資産が積み上がっている点について、もう一度詳しく説明していただけないでしょうか。また年度末に、在庫の除却損が発生するリスクについてのお考えもお願いします。

A：棚卸資産は、3月末比、あるいは1年前と比べましても増えていますが、この大部分は、農業化学品のところでございます。

今回増加した背景の一つは、例えば今NBR、インドで新たに生産拠点を立ち上げておりますが、そういった時にはやはりどうしても前倒しでいろんな原材料等を仕込む必要があるということがあります。先ほど少し申し上げましたが、国内あるいは海外向けの主要な製品につきまして、一部は前倒しで在庫を取得して、それで今後の拡販に備えるというような営業戦略的な部分もございまして、そこにつきましては一時的な状況ということで、特段心配してないです。

また、この棚卸資産増加により、期末に除却損等が発生してしまうという可能性はまずないと考えています。

Q：化学品では在庫は積み上がっていないでしょうか。

A：化学品は、逆に生産をかなり落としてきているということで、期末在庫は、期初に対してかなり水準として落とす計画としています。

Q：わかりました。ありがとうございました。以上です。

以上